

聖書は大ドラマである

小池辰雄著作集

第十卷

聖書は大ドラマである

小池辰雄著作集

第十卷

この、第十卷「聖母は大ドラマである」を
萬人に捧げる



エル・グレコ：聖霊降臨

序言

第一卷『無者キリスト』を創刊して以来、十余年、茲に最終刊たるこの第十卷『聖書は大ドラマである』を上梓するに至りました。第一卷『無者キリスト』（一九七五年）、第三卷『無の神学』（一九八二年）及びこの第十卷『聖書は大ドラマである』（一九八八年）の三卷は著作の年次から言っても正に始と中と終で、第十卷を頂点とした正三角形の相^{すがた}でもあり、無を中心とした三重の円現の相でもあります。第十卷は、宇宙的歴史的大ドラマたる聖書、劇的有機体的な生^なまの神学をうちに藏している聖書の一つの小さき投影の書であります。これは聖書に捉えられた告白的解説の書ですが、部分にして全体、三日月が満月を抱いている書です。

聖書は文学形態としてのドラマではないが、その内容は正に大ドラマです。それはどんなドラマか。絶対次元の霊なる人格神が著者であり、劇の主人公はキリストなる聖霊の実体であり、惨澹たる人間の歴史に絶対界から光を浴びせている多次元的なドラマであります。神の本願は聖名の故の人間救済にあるのですが、それがどのような終末になるかは誰か知らんやであります。

さて聖書のもつ舞台は世界の三大陸の要^{かなめ}に當るパレスティナを中心とした近東、南欧、北アフリカであり、時は永遠を背景とした天地創造から歴史の終末に互る大時限であり、霊的空間は諸^{しやうしやう}々の天界、

煉獄的相対界、地獄界（陰府）であり、役者はイスラエル民族を主役とした諸民族の人物及庶民であり、劇そのものはイスラエル民族の興亡浮沈を契機とした世界救済の預言的史劇であります。

本巻の各頁に掲げた聖句は、旧約、新約いづれも原典からの私訳です。訳文は文語調が主流です。文語調（敢て文語体とは稱はず）が原典の諸調への近似性を感じるのと紙面の関係にも由るのですが、純然たる口語調もあります。假名づかいは歴史的と現代との組み合わせとといったら好いやり方です。

私の翻訳の精神は、ヘブライ語（旧約）、ギリシャ語（新約）の原典と雖も、その奥の神の根源語の媒介であり、表徴であり、暗号ですらあるとの自覚のもとに、神の根源語を靈聴する祈りの心根をもつてするにあります。そのように聖書の言は奥が深いから、弾力性、余韻、兩義乃至多義性もあり、筆を投げたくなる場合もしばしばでした。内面的な詩調豊かな言で、旧約の預言書、詩篇、雅歌、新約の福音書のキリストの言、パウロの書翰のあちこち、ヨハネ黙示録が特にそうです。

聖書は断じて過去の書ではなく、永遠を背景とした現在性、現実性の強い書です。読んでいると、日本という現場と現在に迫ってくるから、火花が散って、おのずから告白的解説となるわけです。

聖書は、従って、第三者的な立場で読める書ではありません。汝と我の対決の場あり、我と汝の融合の場あり、最も究極的には神・キリストへの回帰、帰入、一如に化せられゆく現実の書であります。教訓の書でもなく、客観的叙述の書でもありません。絶対次元からの迫りに圧倒されながら力が与えられる書です。讀いても転んでも、滑っても倒れても、捉えて抱きあげてくれる愛の書であり、光を

浴せ、生命づけて前進せしめではやまぬ力の書であります。だから歓喜と希望が湧き立ち、疲れを知らぬ態勢とされます。

神・キリストは我らを信じ貫き愛し貫き給う。神・キリストの光、生命、義愛の中核的実体は何か。それが聖霊なのであります。その聖霊はどうして受霊するのか。十字架のキリストという神の義と愛の贖罪門のもとで降参すると扉が開き、詩篇第二十三の如き現実となり、キリストに祈り入ることによってであります。選びの人は、終には内的に変貌されます。

少く個人的事を述べさせていただくなら、愚生は一九〇四年如月七日の安息聖日の太陽が南天にさしかかった頃その和光を初めて浴びた由です。二十歳に垂んとする頃入信、爾来六十余年、日本語文語訳旧新約聖書を身読、ぼろぼろにすること三回、一九四〇年から自室の一角を会堂にしての日曜聖書講筵、及び旅をしての伝道集会、その数知れずであります。一九五〇年晩秋、大阿蘇のふところて天界のキリストから直接聖霊の降臨にあづかり、爾来、聖書の驚くべき聖霊の次元の中へといよいよ深く回帰、帰入、祈入、体受しつつあるのです。

そのような愚生が聖書という大ドラマの中に投身して、その現実の中から聖書を告白しているのが、拙著全十巻であり、この第十巻であります。

さて読者の皆さまは、敍上の如きドラマなる聖書ですから、本書を月日を逐って毎日この史劇の展開と共に聖書の中に自分を入れて、ドラマの人物の一人となって読んでゆかれますように！ これを

身説と稱います。本書は内容的には大体歴史的な順です。一月からの旧約の世界を順次読まれる傍ら、同時に九月からの新約の世界も読まれたら好いと思います。各日付の上欄の標題のあとに記されてある聖書の箇所は、その頁の主題に関連あるものですから、聖書を参考にお読み下さい。略語表は巻頭に掲げてあります。なほ、補助の意味で自作の詩と諸種の挿画が然るべき箇所に散在してあります。読者は他面何月何日のところであろうと即ち聖書のどの箇所であろうと自由に読まれることも結構なことです。

智的水準の高度な日本は経済大国になったけれども、精神大国にならなければまことに危い。今や国民社会生活の諸種の面に於て危機的現象が見えています。その最大の原因は教育界にあります。そのためには是非とも聖書を「トレ・レゲ」「採りて読め！」であります。また日本中の書店が聖書を備えるべきであります。本巻の悲願は特に日本の青年男女が聖書を身説するに至らんことであります。

誰の人生もドラマです。共に泣き、共に苦しみ、共に叫び、共に歎び、共に感謝し、共に讚美してくれる無比の友は聖書です。神・キリストから来る光を、力を、生命を、義を、愛を、こんどは弱き人、なやめる人、求める人、苦しむ人、虐げられた人に我々自身が領ち与える人に化せられてゆくところに本当の幸がきましょう。

聖書は外出のときもカバンやハンドバックの中に、部分的に聖書を破ってでも入れて、身説すべき書です。愚生もそのことを実行している人間です。読めば直ちに力が来る。聖霊は、人生の色々なこ

とに出遭えば出遭うだけ、逆に力を与えてやまぬ無限無量のキリストの霊です。

世界的大詩人ゲーテは本当に聖書を身読した人の一人です。彼は聖書を「万巻の書中の書」と言い、霊界のキリストと自然界の太陽には無条件に平伏すと言いました。どうぞ聖書を「わが書」として下さい。合掌。

一九八八年一月十九日 失明の母召天三十一周年の命日 キリストの無者 天光

小池辰雄

〔註記〕 ○邦訳聖書の章節が原文聖書の章節と異なる場合原文聖書の章節は「」の中に入れて表はす。

○自作讃歌（詩）の歌調を（S）X番で表はしたものは、日本の讃美歌の番号を指す。

〈旧新約聖書各卷略語表〉

旧約聖書

エズラ書

ネヘミヤ記

創世記

エステル書

出エジプト記

ヨブ記

レビ記

詩篇

民数紀略

箴言

申命記

伝道之書

ヨシユア記

雅歌

士師記

イザヤ書

ルツ記

エレミヤ記

サムエル前書

エレミヤ哀歌

サムエル後書

エゼキエル書

列王紀略上

ダニエル書

列王紀略下

ホセア書

歴代志略上

ヨエル書

歴代志略下

アモス書

オバデア書

ヨナ書

ミカ書

ナホム書

ハバクク書

ゼパニヤ書

ハガイ書

ゼカリヤ書

マラキ書

新約聖書

マタイ伝福音書

マルコ伝福音書

ルカ伝福音書

ヨハネ伝福音書

使徒行伝

ロマ人への書

コリント人への前の書

コリント人への後の書

ガラテヤ人への書

エペソ人への書

ピリピ人への書

コロサイ人への書

テサロニケ人への前の書

テサロニケ人への後の書

テモテへの前の書

テモテへの後の書

テトスへの書

ピレモンへの書

ヘブル人への書

ヤコブの書

ペテロの前の書

ペテロの後の書

ヨハネの第一の書

ヨハネの第二の書

ヨハネの第三の書

ユダの書

ヨハネの黙示録

〔註〕ゴシックの

部分が略語。

目次

序言

旧新約聖書各巻略語表

旧約聖書（二月―八月）

一月

〔註〕（画）…挿画二頁（詩）…詩二頁のこと

- 1 天地の創造 創一・一 27
- 2 人の創造 創一・二七、二・七 28
- 3 夫婦一体 創二・二三 29
- 4 楽園喪失 創三・九（画）（詩）² 30
- 5 アベルの血の聲 創四・一〇 34
- 6 エノクの歩みと昇天 創五・二四 35
- 7 ノアの大洪水 創八・一一 36
- 8 バベルの塔 創一一・一 37

- 9 アブラムの出ハラン 創一二・一、二 38
- 10 信義一相 創一五・六 39
- 11 義人の力 創一八・三二 40
- 12 獨子の献供 創二二・一〇―一二（画） 41
- 13 ヤコブの石枕 創二八・一七（画） 43
- 14 ヤボクの渡し 創三二・二九（画） 45
- 15 ヨセフの生涯 創四五・八 47
- 16 モーセの生ひ立ち 出二・一〇 38
- 17 モーセの召命と神名 出三・一四 49
- 18 過越^{すき} 出一・一三 50
- 19 出エジプト（上） 出一四・一三、一四 51
- 20 出エジプト（下） 出一五・二（画） 52
- 21 十言（上） 出二〇・二、三、四、七、八、一二 54
- 22 十言（下） 出二〇・一三…一七 55
- 23 偶像礼拝 出三二・九、三一 56
- 24 幕屋（上） 出三三・七 57

二月

- 25 幕屋(下) 出二五・二二、二二三 58
- 26 シナイ契約 出一九・五、六 59
- 27 血の贖罪力 レビ一七・二一 60
- 28 聖潔法 レビ一九・二、一八 61
- 29 ヨベルの年 レビ二五・一〇 62
- 30 一房の葡萄の谷 民一三・二四(画) 63
- 31 逃れ²の町 民三五・一一 65
- 1 モーセの祈り 申三・二六 66
- 2 妬む神 申四・二四 67
- 3 聴けイスラエルよ! 申六・四―九 68
- 4 神の擇び 申七・七 69
- 5 神の靈言と大自然の食物 申八・三 70
- 6 心の割禮 申三〇・六 71
- 7 モーセの歌 申三二・一〇、一一(詩) 72
- 8 我れ汝と共に ヨシ一・五、六 76
- 9 遊女ラハブ ヨシ二・一一(画) 77
- 10 ヨルダンを渉る ヨシ三・一七 79
- 11 実存主^{エホバ}か他神か ヨシ二四・一五 80
- 12 平安の神 士六・二三、二四(画) 81
- 13 ギデオンの精銳三百 士七・二〇 83
- 14 ナザレ人サムソン 士二三・五 85
- 15 盲者サムソン 士二六・二八(画) 87
- 16 モアブの女ルツ ルツ一・一六 88
- 17 ハンナの讃歌 サム前二・二 89
- 18 天童 サムエル サム前三・三、四 90
- 19 エベネゼル サム前七・一二 91
- 20 驢馬を捜^{さが}して王と成る サム前一〇・六、七 92

三月

- 21 祭儀か信従か サム前一五・二二 93
- 22 ダビデの召命 サム前一六・七 94
- 23 ダビデの立琴 サム前一六・二三 95
- 24 ダビデとゴリアテ サ前一七・四五(画) 96
- 25 ダビデとヨナタン サム前二〇・四二 98
- 26 流浪のダビデ(上) サム前二二・一四 99
- 27 流浪のダビデ(下) サ前二四・一四、一七 100
- 28 弓の歌(前半) サム後一・一九 101
- 29 弓の歌(後半) サム後一・二六 103
- 1 劔の問題 サム後二・二六 104
- 2 神の櫃と踊るダビデ サム後六・一四 105
- 3 実存主は幕屋ダビデは王宮 サム後七・六 106
- 4 ダビデとパテシバ サム後一一・二 107
- 5 ダビデとナタン サム後一二・七、一三 108
- 6 ダビデとアブサロム サ後一八・三、三二 109
- 7 ダビデ辞世の歌 サム後二三・一―七 110
- 8 ソロモンの智慧 王上三・一二(画) 111
- 9 ソロモンの神殿 王上八・二七…三〇 113
- 10 ソロモンの背神 王上一・九 114
- 11 エリヤと鴉^{カウ} エリヤと寡婦 王上一七・六、一六、二一、二二 115
- 12 カルメル山上の靈戦 王上一八・三六、三七 116
- 13 エリヤの遁避行 王上一九・五、一二、一三 (画) 117
- 14 ナボテの葡萄園 王上一・三 119
- 15 エリヤの昇天 王下二・二一、一二(画) 120
- 16 エリヤの衣鉢 エリシヤ王下二・一四、一五 122
- 17 エリシヤの無尽の油 王下四・七 123
- 18 エリシヤとシュネムの石女 王下四・三二…三七 124

- 19 ナアマンの癩病 王下五・一〇 ¹²⁵
- 20 神の人の武士道 王下六・一七、二二 ¹²⁶
- 21 浮ぶ斧、死骨の力 王下六・六、一三・二二 ¹²⁷
- 22 神とサタンとヨブ（上） ヨブ一・九 ¹²⁸
- 23 神とサタンとヨブ（中） ヨブ一・二一 ¹²⁹
- 24 神とサタンとヨブ（下） ヨブ二・一〇 ¹³⁰
- 25 ヨブおのが誕生を詠う ヨブ三・三、一一、一二、二〇 ¹³¹
- 26 ヨブの自己省察 ヨブ七・一、九・二〇、一〇・一 ¹³²
- 27 「わか証者は天に在り」 ヨブ二・一〇、一二・二三、一三・一五、一四・七、一六・一九・二二 ¹³³
- 28 「我知る、我を贖ふ者は活く」 ヨブ一九・二五、二六、二七 ¹³⁵
- 29 ヨブの今昔の感 ヨブ二三・八…一三、二七・二一四 ¹³⁶
- 30 エリフの執成 ヨブ三二・八…（画） ¹³⁷
- 31 神の天地万物 ヨブ三八・六、七…四一 ¹³⁹
- 四月
- 1 ヨブの見神 ヨブ四二・一、二、五、六 ¹⁴⁰
- 2 ヨブの祝福 ヨブ四二・八…一六（画） ¹⁴¹
- 3 シュラミの女の愛の言 雅一・二、三、二・一、三、六 ¹⁴⁴
- 4 春が来た！ 雅二・八一—四 ¹⁴⁵
- 5 彼我一如 雅二・一六、一七 ¹⁴⁶
- 6 女性美 雅四・一一五 ¹⁴⁷
- 7 愛は最大の力 雅八・六、七（詩） ¹⁴⁸
- 8 万象流転 伝一・二—七 ¹⁵⁰
- 9 「日の下に新しきものなし」 伝一・八…一八

- 151
10 「万事に時期あり」 伝三・一……八 152
11 畏神遵法 伝一・一、一二・一……七 153
12 宗教・道徳・学問 箴一・七……二三、三・三
……三四、四・二七、六・二三 154
13 畏神に天道あり 箴八・一三、九・一〇、
一〇・一二、二九、一二・一九、一三・一四、
一四・二七 155
14 七轉八起 箴一六・一八、三三、一七・九、
一九・一七、二〇・二〇、二七、二四・一六、
二五・二八 156
15 神秘と栄光 箴三〇・一八、一九、三〇・三
〇 157
16 自己否定の道 詩一・一……六 158
17 求神の道 詩一四・一、二、三 159
18 至福 詩一六・五、六、七、八 160
19 天然の神秘 詩一九・一……六（詩） 161
20 人生の歌 詩二三・一……六（詩） 163
21 神はわが光 詩二七・一、五、一四（画） 165
22 罪のゆるし 詩三二・一、二、五 167
23 信仰の凱歌 詩四六・一……一〇 168
24 砕かれた靈魂 詩五一・一、九……一七 169
25 神に飢え渴く 詩六三・一、三、五一八 170
26 ただあなただけ 詩七三・一……二六 171
27 葡萄樹 詩八〇・一、三、八……一八 172
28 力より力へ 詩八四・一……七 173
29 戦闘の幕屋 詩九一・一……一六 174
30 旧約の福音 詩一〇三・一……二一 175
五月
1 出エジプト 詩一一四・一……八 176
2 私は愛する 詩一一六・一……一七 177

- 3 神はわが力、わが歌、わが救 詩二一八・一
 : 178
- 4 隅の首石 詩二一八・一九・二九 179
- 5 神の護り 詩二二・一一八 180
- 6 涙の種子、歡びの禾束 詩二二六・二一六 181
- 7 深淵・待晨 詩一三〇・一一八 182
- 8 思慕の魂 詩一三七・一一六 183
- 9 汝知り給ふ 詩一三九・一一七 184
- 10 汝を隠養とする 詩一四三・一一一 185
- 11 大愛大能の神 詩一四五・三三・二〇 186
- 12 萬象の讚美 詩一四八・一一・一四 187
- 13 エステル エス二・五・一七、一八 188
- 14 我唯だ汝らのみを知る アモス三・二 189
- 15 公道・正義の本流 アモス五・二四 190
- 16 汝何を見るや アモス七・八、八・二 191
- 17 ホセアの悲劇的結婚 ホセア二・一九、二〇
- 18 神の深き願みの愛 ホセア三・一、二、三 192
- 19 わが歡喜は愛に在り ホセア六・六 193
- 20 神の愛の綱 ホセア一・一、四 195
- 21 選民への終末的希望 ホセア一四 196
- 22 終末的平和の祈求 ミカ三、四 197
- 23 神と共に歩む ミカ六・八 198
- 24 「誰か汝の如き神在らんや」 ミカ七 199
- 25 嫉妬の火。神の隠養 ゼバ一・一八、二・三 200
- 26 戦乱と淫乱 ナホム一・二、三・一―四 201
- 27 觀望塔 ハバ一・二、二・一―三 202
- 28 義人生信 ハバ二・四 203
- 29 因果應報 オバ三、四、一五 204
- 30 第二神殿建造の預言 ハガイ二・五、六、七

六月

- 31 相互帰入 ゼカ一・一四―一六 205 206
- 1 メシヤ王国の預言 ゼカ九・九、一〇 207
- 2 メシヤとエホバ ゼカ一二、一三、一四 208
- 3 義の陽 マラキ四・一、二、五 209
- 4 心を裂いて立ち帰らん ヨエル二 210
- 5 瓢の徴 ヨナ一・二一、一七、三・一、二 211
- 6 神の本願 ヨナ四・一〇、一一 212
- 7 幕屋より幕屋に 代上二七・五 213
- 8 ソロモンの神殿 代下二・五、六 214
- 9 ペルシヤ王クロスの詔勅 エズラ一・一、二 215
- 10 ネヘミヤの祈り ネヘ一・五一―一〇 216
- 11 権力者の傍若無神の相 イザヤ一 217
- 12 軍備全廃の預言 イザヤ二・四 218
- 13 葡萄園の歌 イザヤ五・一…七 219
- 14 イザヤの召命(其二) イザヤ六・一―五 220
- 15 イザヤの召命(其二) イザヤ六・六一―一〇 221
- 16 信仰不動 イザヤ七・九(画) 222
- 17 インマヌエル イザヤ七・一四 224
- 18 蹟きの石 イザヤ八・一三、一四 225
- 19 遣れる者 イザヤ一〇・二〇―二三 226
- 20 霊的人格メシヤ イザヤ一・一―三 227
- 21 第二の楽園 イザヤ一・六―九 228
- 22 終末的和合 イザヤ九・二三―二五 229
- 23 終末的救済と栄光 イザヤ二四―二七 230
- 24 貴き隅石 イザヤ二八・一六 231
- 25 天道地路 イザヤ三〇・一五、二一 232
- 26 畏神は国宝 イザヤ三一・三、三三・六 233

27 世界の破滅 イザヤ三四・一—四 234

28 樂園回復 イザヤ三五(詩)₂ 235

29 ヒゼキヤの祈り イザヤ三八・一七—二〇

(詩)₂ 238

30 エレミヤの召命 エレ一・四—九 241

七月

1 生命の水の源 エレ二・一二、一三 242

2 我に帰れ! エレ三・二二 243

3 わが腸よわが腸よ! エレ四・一九—二六

(画) 244

4 一者の存在 エレ五・一 246

5 獅子と狼と豹 エレ五・六 247

6 預言者の宗教 エレ七・四—七 248

7 泪の泉 エレ九・一(詩) 249

8 唯だ神を誇る エレ九・二三、二四 251

9 義しきかな神は! エレ一二・一 252

10 麻帯 エレ一三・一 253

11 エレミヤの執り成しの祈り エレ一四・七—

九 254

12 鷓鴣しやこの族 エレ一五—一七 255

13 陶工と陶器 エレ一八・一—四 256

14 聖言は火の如し エレ二〇・七—九 257

15 佳き無花果 エレ二四・五—七 258

16 罪無き者の血 エレ二六・一四、一五 259

17 本願によって立ち帰る エレ三一・一八—二

〇 260

18 新契約 エレ三一・三一—三四 261

19 永遠の契約 エレ三二・三七—四一 262

20 断罪による滅亡の現実 哀一・一、二、三、

一八、二〇 263

21 聖憤に因る惨状 哀二・一、一二、二〇 264

八月

- 22 苦難の中に神在ます 哀三 265
- 23 本願回帰 哀四、五 266
- 24 起死回生への預言 エゼ二一、一八 267
- 25 義人の義はその人に帰す エゼ一八・二〇 268
- 26 枯骨の復活 エゼ三七・一―六 269
- 27 神殿の霊水 エゼ四七・九、一二 270
- 28 出バビロン イザヤ四〇・一一―二一 (画) 271
- 29 大宇宙の神 イザヤ四〇・一三―二六 273
- 30 鷺の如く翼を張りて イザヤ四〇・二七―三 274
- 31 エホバの僕イスラエル イザヤ四一・八―一 275
- 四
- 2 雲散霧消の贖罪 イザヤ四三、四四 277
- 3 隠れて在ます神 イザヤ四五・一四、一五 278
- 4 我は荷い我は救う イザヤ四六・四 279
- 5 神の栄光の宗教 イザヤ四八・九―一一 (詩) 280
- 6 わが僕イスラエル イザヤ四九・一―七 283
- 7 神の義と救 イザヤ四六・五一 284
- 8 朝な朝な門弟らしく イザヤ五〇・四―九 285
- 9 未見未知の霊止^{ひと} イザヤ五二・一三―五三・二 286
- 10 悲痛の荷手 イザヤ五三・三一―六 287
- 11 神の羔 イザヤ五三・七一―一〇上 288
- 12 どん底の執り成し イザヤ五三・一〇下―一
- 1 傷める葦、ほの暗き蠟燭 イザヤ四二・一―

二 289

六二・一 302

13 夫なる神と妻なるイスラエル 五四・一、四、
24 我は独りで酒槽を踏んだ イザヤ六三・二、

五、一〇 290

三、五 303

14 永遠の契約 イザヤ五五・一—三 291

25 神の底ぬけの愛 イザヤ六三・八、九 304

15 天道地路 イザヤ五五・六—九(詩₂) 292

26 本当のしがみつき信仰 イザヤ六三・一〇、

16 神に迎えられる人 イザヤ五七・一、二 295

一一、一五、一六、一七 305

17 天地の抱擁 イザヤ五七・一五 296

27 思いがけない神 イザヤ六四・四、六五・一

18 わが嘉する断食 イザヤ五八・六—九上 287

306 栄光の乳房 イザヤ六五・一七—六六・一〇、

19 安息日に神を楽しむ イザヤ五八・一三、一

28 栄光の乳房 イザヤ六五・一七—六六・一〇、

四上 298

一一(詩₂) 307

20 神の甲冑契約の靈言 イザヤ五九・一六、一

29 神靈の力は火をも制する ダニ三・二五—二

七、二一 299

七 310

21 神の光を浴びて イザヤ六〇・一、一五、一

30 メネ・メネ・テケル・ウパルシン ダニ五・

六、一九、二〇 300

二五—二八 311

22 神靈臨みて福音を イザヤ六一・一—三 301

31 大破局と星の人 ダニ六・二一、二二、一

23 神に在っての喜び楽しみ イザヤ六一・一〇、

二・一、三 312

新約聖書(九月—十二月)

313

(裏)

314

九月

- | | | | |
|----|----------------|----------------|-----|
| 1 | 言い逆いの徴(上) | ルカ二・三四 | 315 |
| 2 | 言い逆いの徴(下) | ルカ二・三四(画) | 316 |
| 3 | 受肉 ヨハネ一・一一八 | 318 | |
| 4 | 少年イエス ルカ二・四九 | 319 | |
| 5 | 聖霊のバプテスマ | マタイ三・一一：一七 | |
| 6 | キリストとサタン | マタイ四・四、七、一〇 | |
| 7 | 天国回帰(上) | マタイ四・一七—五・三 | 322 |
| 8 | 天国回帰(下) | マタイ五・三、一〇(詩) | 323 |
| 9 | 律法と福音 | マタイ五・二一、二二 | 325 |
| 10 | 敵をも愛する | マタイ五・四四、四五上 | 326 |
| 11 | 最高の言 | マタイ五・四五下、四八(画) | 327 |
| 12 | いのり | マタイ六・六 | 329 |
| 13 | 主の祈り(其一) | マタイ六・九—一三 | 330 |
| 14 | 主の祈り(其二) | マタイ六・一〇 | 331 |
| 15 | 主の祈り(其三) | マタイ六・一二 | 332 |
| 16 | 主の祈り(其四) | マタイ六・一三(詩) | 333 |
| 17 | 人を審かぬこと | マタイ七・一 | 335 |
| 18 | 求めよ、さらば与へられる | マタイ七・七 | |
| 19 | 黄金律 | マタイ七・一二 | 337 |
| 20 | 狭き門 | マタイ七・一三、一四 | 338 |
| 21 | 聖意体現 | マタイ七・二一 | 339 |
| 22 | 百卒長の信仰 | マタイ八・八、一〇 | 340 |
| 23 | 人の子は枕する所なし | マタイ八・二〇、二四 | |
| 24 | 我は罪びとを招かんとて来れり | マタイ九・ | |

一三 344

25 天劔の十字架道 マタイ一〇・三四、三八

345

26 一粒の芥種 マタイ一三・三一、三二 346

27 湖上のキリスト マタイ一四・二七 347

28 カナンの女 マタイ一五・二二…二八(詩) 348

348

29 エレクシヤの磐ベテロ マタイ一六・一五

350

30 生魂の重さ マタイ一六・二四—二六 351

十月

1 カナの婚宴 ヨハネ二・三…一 352

2 イエスとサマリヤの女 ヨハネ四・一三…二

三(画)

353

3 無者キリスト ヨハネ五・二〇…三九 355

4 我は生命のパンなり ヨハネ六・三三…五三

356

5 キリストの榮化 マタイ一七・一—七 357

6 「ベテロの魚」 マタイ一七・二七 358

7 童心の天国 マタイ一八・三(詩)(画) 359

8 幕屋の原相 マタイ一八・二〇 362

9 愛と永遠の生命 ルカ一〇・二七、二八 363

10 深所に漕ぎ出でよ! ルカ五・四、五(詩) 364

364

11 イエスと富める青年 マルコ一〇・一八 366

12 マルタとマリヤ ルカ一〇・四二上 367

13 ラザロの復活 ヨハネ一一・四三(画) 368

14 我も汝を罪せじ ヨハネ八・一一 370

15 放蕩息子 ルカ一五・二四(画) 372

16 主の大饗宴 ルカ一四・二五、二四(詩) 374

17 盲人バルテマイ マルコ一〇・四七、五一、

五二 376

18 パリサイ人と取税人の祈り ルカ一八・二三

(詩) 377

19 寡婦のレプタ二枚 マルコ二・四四 379

20 十人の乙女 マタイ二五・四 (画) 380

21 羊と山羊 マタイ二五・四〇 382

22 ナルドの香油 マルコ一四・三、八、九 (詩)

(画) 383

23 洗足 ヨハネ一三・八 (詩) 386

24 最後の晚餐 マタイ二六・二六―二八 388

25 我は道なり眞相なり、生命なり ヨハネ一

四・六・二八 389

26 葡萄樹 ヨハネ一五・一―九 (詩) 390

27 聖霊、助主、慰主 ヨハネ一六・七、三三

392

28 大祭司の祈り ヨハネ一七・一―二三 393

29 ゲッセマネの血禱 マタイ二六・三八、三九

(画) 394

30 十字架 マタイ二七・二〇―二二 396

31 今日私と一緒にパラダイスだ! ルカ二三・

四三 397

十一月

1 十字架の義と愛 マタイ二七・四〇ルカ二

三・三四 (画) 398

2 キリストとマグダレーナ ヨハネ二〇・一五

：一八 (詩) 402

3 エマオ途上のキリスト ルカ二四・一三―三

二 (画) 403

4 聖霊を約束するキリスト マタイ二八・一九、

その他 408

5 復活のキリストとペテロ ヨハネ二一・一五

：一九(画) 409

〇・二三、二四、二八 430

6 キリストの昇天 ルカ二四・五〇—五三(画)

16 神の力 ロマー・一一・一六 431

411 7 約束の聖霊 行伝一・八(詩)³ 413

17 神の義の顯現 ロマー・一七 432

8 五旬節^{ペンテコステ} 行伝二・一—四(詩) 417

18 恵信の義 ロマ三・二—二四 433

9 キリストの無者ペテロ 行伝三・四—一三

19 新しき永遠の生命 ロマ六・三、四、六・二二、二三 434

(画) 419

20 罪との戦 ロマ七・二—二五 435

10 最初の殉道者ステパノ 行伝七・五一、五二

21 霊と肉 ロマ八・一—九(詩) 436

(詩) (画) 421

22 聖霊の讃歌 ロマ八・二六、二七 438

11 パウロの回帰 行伝九・三、四、一七、一八

23 神・キリストの愛 ロマ八・三二—三九 439

(詩) (画) 424

24 アナテマ魂 ロマ九・一、二、三 440

12 クリスト者^{クリスティアノス} 行伝一一・一九—三〇 427

25 神より出でて神に帰る ロマー・一・三三—三六 441

13 神の中に生き動きまた在る 行伝一七・二八

26 愛は律法の完成 ロマー三・八、一〇 442

428 14 パウロの按手 行伝一九・五—七 429

27 十字架と聖霊 コリ前一・一三、一八、二・一五 443

15 パウロの棄身の伝道 行伝一九・一一、二

十二月

- 28 アナンケー コリ前九・一六 444
- 29 自主と僕の実存 コリ前九・一九…二三 445
- 30 聖霊とその靈賜^{たましひ} コリ前一二・一、四一六 446
- 1 愛の讃歌 コリ前一三・二、四、七、八、一 447
- 2 復活の讃歌 コリ前一五・四四、四五 448
- 3 自由の霊 コリ後三・一七、一八 449
- 4 神・キリスト一点張り コリ後四・七一〇、
五・一…二一 450
- 5 無一物無尽蔵 コリ後六・八…一〇 451
- 6 鴻大なる黙示 コリ後一二・七一〇 452
- 7 十字架・聖霊の体受 ガラテヤ二・一九、二〇 453
- 8 無限無量なるキリストの愛 エペソ二・八…
三・一九 454
- 9 神・キリストの超在、遍在、内在 エペソ四・
四一六(詩) 455
- 10 キリストの戦士たれ エペソ六・一〇—一七
(詩) 457
- 11 無的実存と一切の秘決 ビリビ二・五—七、
四・一二、一三 459
- 12 天地一如、萬物浸透 コロ三・一…一一 460
- 13 絶えず祈る、御霊を熄^ひさない テサ前五・一
六…二八 461
- 14 罪びとの首^{かしら}、使徒の首 テモテ前一・一五
テモテ後一・六、二・九、四・六、七 462
- 15 聖霊の維新 テトス三・四一六 463
- 16 神の大祭司キリスト ヘブル四・一五… 464
- 17 永遠の贖罪、永遠の嗣業 ヘブル九・一一—

一五 465

18 慕ふ所は天に在り ヘブル一・一…一六

466

19 陣営より出でて御許へ ヘブル二三・一一—

一三 467

20 本来信・行一相一如 ヤコブ一・二三…

21 愛と栄光の聖靈 ペテロ前四・七…一四 469

22 一日千年 ペテロ後三・八一—三 (詩) 470

23 永遠の生命たる言^{コラ} ヨハネ一書一・一…三・

一六 473

24 愛は神より出づ ヨハネ一書四・七…二三 474

25 我れ戸の外に立ちて叩く 黙一・八…一九、

三・二〇、二一 (画) 475

26 血の復讐、羔の怒、羔の血 黙六—七 (詩) 477

27 羔の君と十四万四千人 黙一四・一—五 479

28 ハル・マゲドンの戦 黙一六・一三…一六 480

29 羔の婚姻 黙一九・六—九 481

30 神の幕屋 黙二一・二—四 482

31 キリストの再臨 黙二一・二二…二二・二〇

(詩) 483